



べんけい通信

vol.2
2025.6

NEWS LETTER 担当：小西皮膚科クリニック
院長 小西啓介 先生

帯状疱疹

帯状疱疹は、水疱瘡ウイルス：水痘ウイルス (VZV) による感染症です。VZV は全ての人々が感染し皮膚に水疱瘡を発症すると、その部位の感覚神経を上行し、その神経節に一生潜伏しています。我々は VZV に対する免疫を獲得すると、主に細胞性免疫でウイルスを抑制していますが、加齢、様々な疾患、ストレスなどの影響で免疫が低下すると神経節での VZV の増殖を何度でも許してしまいます。神経節で増殖したウイルスは感覚神経の中を皮膚に向かって移動し、皮膚に帯状に紅斑や水疱を形成します。その臨床像から病名が帯状疱疹（一般名；おびくさ）と言われます。水疱部位は治癒しても**瘢痕となり傷痕**が残ります。**移動時に神経に傷**がつくことで**神経痛や感覚鈍麻**などを引き起こします。**帯状疱疹の発症率は 50 歳以上で上昇し、日本では 80 歳までに約 3 人に 1 人が、帯状疱疹を経験すると推定されています。**



帯状疱疹罹患時の日常生活の注意点

① **できるだけ安静にしましょう！**

十分な睡眠と栄養をとり、精神的・肉体的な安静を心がけましょう。可能なら、仕事は休みましょう。

② **患部を冷やさないようにしましょう！**

冷えると神経痛が悪化します。ただし、使い捨てカイロや温湿布薬の使用は、やけどやかぶれに注意しましょう。

③ **水ぶくれは破らないようにしましょう！**

細菌感染を防ぐためにも、患部は触らず、清潔にしましょう。入浴は構いません。石鹸の使用も結構です。清潔なタオルで軽く押さえて水気を取りましょう。

④ **お酒は控えましょう！**

血管拡張により炎症がひどくなり、痛みが強くなる場合があります。

⑤ **小さな子供との接触は避けましょう！**

帯状疱疹としては感染しませんが、水疱瘡にかかったことのない人や免疫が低下した人は水疱瘡になることがあります。



痛みは時間とともに消退することが多いですが、**後遺症**として痛みや異常感覚が残ってしまう**帯状疱疹後神経痛**は痛みの中でも最も痛いものの一つとされています。また神経根で運動神経へ感染が波及すると部位によってさまざまな運動麻痺を生じます。**顔面**では**顔面神経麻痺**や**眼球運動障害**などを起こすことがあります。また**眼神経**や**内耳神経**に障害が及ぶと**視力障害**や**聴力低下**、**平衡感覚障害**を起こします。躯幹でも腹筋麻痺により腹部片側の膨隆、仙骨部では排尿・排便障害を起こすことがあります。神経因性膀胱では膀胱炎や腎盂腎炎などの泌尿器系感染症の続発の危険性もあります。また全身の神経節でウイルスが増殖しているため、どの部位に生じた帯状疱疹でも**脳炎**や**髄膜炎**の危険性があります。



このように随伴症や後遺症が恐ろしい帯状疱疹の主因は自らの免疫の低下と言えます。従って発症予防には日頃からストレスを溜めず、働き過ぎに注意し、食生活にも気を止めて免疫を保つことが重要です。不幸にも発症した場合、できるだけ早く抗ウイルス剤を投与することが最も大切です。抗ウイルス剤も複数の薬剤があります。それぞれの患者さんに合ったものを投与することが必要です。また発症前から急性期を経て帯状疱疹後神経痛までを含めた痛みを帯状疱疹関連痛と呼びますが、その痛みには十分な痛み止めを使用することが後遺症を残さないためにも重要です。帯状疱疹から帯状疱疹への感染はありませんが、**水疱内には水疱瘡ウイルス**がいるため、同居人を中心に**2週間の潜伏期間**を経て**水疱瘡（水痘）**をうつすことがあります。

自らの免疫を保つために、加齢によるVZV免疫低下対策として、50歳以降に自己負担でワクチン接種が可能になりました。特に令和7年度から65歳での定期接種に公費負担制度ができました。65歳以降も5年刻みで公費負担されますので、この機会にぜひワクチン接種をご検討ください。ワクチンには国産の生ワクチンと外国製の不活化ワクチンがあります。それぞれ長所、短所がありますから、それぞれの患者さんに合ったものを接種してください。



発行：京都市下京区・南区・東山区在宅医療・介護連携支援センター
〒601-8452 京都市南区唐橋堂ノ前町15-9 エステート南ビル301
一般社団法人 下京西部医師会内
電話：075-693-8677 FAX：075-693-3677
ホームページ：<https://www.ishikai.or.jp/renkei-center/>
E-mail shimominami-ikai@ishikai.or.jp

